

メディアワールド



情報・視聴覚教育を語る会

毎年行われている、「情報・視聴覚教育を語る会」。これは、市の研究会と区の研究会の連携を図るために始まったものです。区の研究会の研究内容に加え、市の研究会として全市のどのようなニーズがあるのかを知る大切な機会です。今年は、磯子区と神奈川区の各区の部長さんより一年間の研究内容が語られました。

—磯子区発表—

研究テーマ「児童の情報活用能力を高める指導のあり方」について、岡村小学校の梅津先生より発表がありました。磯子区では、各教科・領域、総合的な学習の時間の中において、児童が様々な情報にふれる場面で、どのような指導が必要なのか。また、情報機器を適切に、また効果的に活用するためにはどのように指導していけば良いのか。という視点で1年間研究を進めてきました。区の一斉授業研で取り上げた「情報モラル教育」については、社会的環境の変化の大きさ（機器の進歩等）にも対応しながら、計画的に進めていく必要性を感じました。市の研究会と区の研究会が互いにニーズを受け取りながら、融合がはかれれば、より研究が深まるのではないかと。特に、昨今話題になり、他の市町村で導入が始まっているタブレットPCの実践研究において、市

の研究会でも研究を進め、各区に情報提供していくと良いという話し合いが行われました。

—神奈川区発表—

研究テーマ「情報・視聴覚教材・機器に親しみ、互いに伝え合い、高め合いながら学ぶ子の育成」について、子安小学校の若木先生より発表がありました。神奈川区では、子どもたちの気づきや学びを高めるための手立て、情報化社会を生きるためのモラルやマナーの指導、の2つに焦点をあてて1年間研究を進めてきました。1年間の研究、一斉授業研を通して、「どの機器を、どの場面で使うとより効果的かを考えていきたい。」「子ども同士の双方向のコミュニケーションになるように考えていきたい。」見ればだれもがわかる授業のユニバーサルデザイン化。情報・視聴覚教育の進化に伴って、新しい機器にもどんどん使われていく必要性。情報機器の発達に遅れをとらないように、

情報モラル教育のより一層の充実を図っていく必要性。などたくさんの成果と課題を得る事ができました。

今後、市の研究会と区の研究会の連携を強化しながら、横浜市の教職員の方々のニーズをしっかりと受け止めて、研究を進めてまいります。各月の研究会では、明日からでも使えるアイデアや子どもたちの学びを高める手立てなど、私たちもたくさんの事を学ぶ事ができています。校務が忙しい中ですが、来年度以降もぜひ1回でも多く、研究会に足を運んでいただき、共に学び、子どもたちの成長を支えていきましょう。1年間、メディアワールドをお読みいただきありがとうございました。

